



第5次緊急消防援助隊



第2次緊急消防援助隊

少しでも早く家族のもとに

御嶽山・静岡県緊急消防援助隊派遣

御嶽山の噴火に伴い、市消防職員が「静岡県第2次・第5次緊急消防援助隊」として救助・捜索活動を行いました。現地での活動状況を報告します。

問い合わせ 相良消防本部 石原 ☎(53)0119

平成26年9月27日午前11時52分、長野県と岐阜県の境にある御嶽山が、突然噴火しました。この噴火により、死者は57人、行方不明者は少なくとも6人になり、戦後最悪の火山災害となりました。この未曾有の大災害に対して、県は噴火直後から、消防組織で構成される「県

緊急消防援助隊」を6次にわたり現地に派遣しました。行からは、9月30日から10月4日までの第2次、10月10日から10月14日までの第5次の2回、救助部隊10人、後方支援部隊6人の計16人を現地に派遣しました。派遣された隊員たちは、「行方不明者を発見し、家族のもとに帰した

い」という強い気持ちで、御嶽山を目指しました。現地に到着するとすぐに、災害状況の確認のため、静岡県隊による会議が繰り返されました。標高、再噴火や有毒ガス、崩落などの危険が混在

必死の救助・捜索活動

する活動現場の把握に努める必要があります。その後、第2次では山頂付近で被災した要救助者8人の搬送を行いました。第5次では、山頂付近の行方不明者を、隊列を組みながら棒を火山灰が堆積する地面に刺しての捜索や、急傾斜地の岩の隙間などの捜索を行いました。火山灰が5、10センチメートル堆積した地面はぬかるみ、足を取られ思うように捜索が進みません。硫化水素の有毒ガスや崩落、再噴火などの危険もあり、焦りや緊張感で精神的に追い詰められています。

こうした緊迫した状況でも「救助したいという消防魂」で懸命な捜索を続けました。

1 宿営地における静岡県隊の会議 2 被災者救出のため徒歩にて山頂に向かう 3 山頂に近づくにつれ灰色の景色に 4 被災者を搬送のため下山 5 簡単な夕食を仲間たちと取る 6 ロープを使用した急傾斜地の捜索 7 自衛隊輸送機により山頂へ 8 火山灰が体積する地面に棒を刺し捜索 9 急傾斜地の岩の間をくまなく捜索 10 活動中も噴煙をあげ再噴火の危険性のある御嶽山 11 いまだ行方不明者が救出を待つ頂上付近

しかし、全員を発見することはできず、行方不明者が残る御嶽山の捜索活動、10月16日、2次災害の危険性が高まったことから、打ち切りとなりました。今回は、25年4月1日の市相良消防本部発足後、初めてとなる緊急消防援助隊への派遣となりました。ここで得た知識や経験を生かしながら、市民の皆さんの安全安心を守るための消防・救命活動に、引き続き全力で取り組んでいきます。

災害被害者のために活動することが使命



相良消防本部消防長 永谷 栄作 さん

市消防本部は、設立2年目で若い職員が多い中、県緊急消防援助隊の救助部隊に登録しています。

今回の派遣は、噴火や噴石、有毒ガスの発生が続く極めて危険で、不慣れた山岳地帯における救助・捜索活動でした。

隊員たちは、「行方不明者を少しでも早く家族のもとに帰してあげたい」という思いで、精一杯の力を尽くしました。無事、怪我もなく帰還した隊員は、かけがえない経験と消防人としての誇りを得たと確信しています。

災害はいつどこで発生するかわかりません。有事の際には、市外であっても緊急消防援助隊として、被災者のために活動することが使命だと考えています。



▲発隊式後に相良消防本部を出発



▲サービスエリアに集結する県緊急消防援助隊



▲約6時間をかけ御嶽山を目指す部隊